

聖稜だより

令和5年
春号①



発行者：医療法人社団 聖稜会
責任者：理事長 宮津 巖
発行日：令和5年 4月10日

脊椎椎体骨折になっても 日常生活復帰を目指しましょう！

医療連携相談事業部
部長 兵永 佳子

平素より大変お世話になっております。
医療連携相談事業部です。

脊椎椎体骨折は背骨の椎体と言われる部分（体を支える大切な部分）の骨折です。受傷した時から体動時に激痛があり、体動困難になってしまいます。当院では脊椎椎体骨折になった方が、安静時からリハビリテーションを行い、受傷前の生活に戻ることが出来るよう積極的に支援しています。

今回は、当院に入院となる疾患名の中で30%以上を占めている脊椎椎体骨折・恥骨骨折について令和4年4月～令和5年2月までの入院患者さんのデータを分析しましたので報告させていただきます。

図1・2で示すように、高齢の女性に多く発症していることが分かります。これは、骨粗鬆症が原因となっていることが多く、比較的軽い外傷でも骨折してしまうことが理由です。年齢は男女とも80歳から90歳が半数以上を占めています。年齢的に筋力が落ちて、転倒しやすい事が考えられます。図3・4では受傷前介護保険の受給を受けていない方が46%と約半数いらっしゃる事が分かります。高齢でも元気に生活されていたが作業中等に受傷される方も多くい

ます。一方介護保険を受給されている方は要介護1・2の方が多く、歩行時に躓いたり、バランスを崩して転倒したりすることが原因になっています。図5では開業医からの紹介が77%で、突然の受傷で在宅療養に戸惑う方が多いことが分かります。図6では受傷された方の居住地を示しています。やはり当院の近隣の方が多いことが分かります。

脊椎椎体骨折は必ずしも入院の必要はないので、自宅で安静が保てれば外来診療を続けリハビリに通うことも可能です。痛みが強くて動けない場合や、一人暮らしなどの諸事情で入院治療を希望さえる場合は当院相談員にご相談ください。



リハビリテーション部
部長 五十嵐有紀子 医師

椎体骨折は偽関節といって骨がなかなかつかずに痛みが長引いてしまう場合もありますが、多くは骨がついてくると、次第に痛みは取れてきます。当院ではコルセットなどの外固定を行い、痛みの状態を診ながらリハビリテーションを行います。筋力強化歩行練習の他に生活の中での動作の仕方や環境の調整など、総合的な活動を支援してまいります。

